

平成25年 浦添市成人式

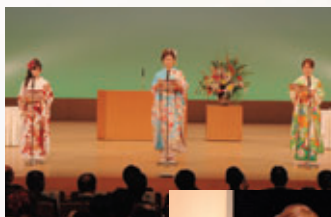
輝く新成人大人への第一歩

1月13日(日)、てだこホールで成人式が行われました。大人になったことを自覚し、新たな第一歩を歩み始めました。今年の浦添市の新成人は、平成4年4月2日から平成5年4月1日までに生まれた1294人です。

小雨模様を吹き飛ばすような色鮮やかな振袖や袴、スーツに身を包んだ新成人が会場を彩るなか、成人式が開催されました。

今年は司会進行役を新成人代表の新垣あいさんが務め、笑顔に包まれた和やかな式となりました。

オープニングセレモニーの「思い出のアルバムフォトムービー」で、中学時代の懐かしい写真や恩師からのビデオメッセージが上映されると会場からは指笛や拍手、歓声が巻き起こり、盛り上がりを見せました。



式典では儀間市長からお祝いのあいさつと琉球王国時代から伝わる言葉が紹介されました。

「美」・・・内面を美しく心を磨きなさい。

「仁」・・・義理人情に厚く親孝行しなさい。約束を守りなさい。

「柔」・・・常に和み心で和を持って接しなさい。

「この言葉を胸に立派な社会人として活躍してください。市長からの激励に、会場を埋め尽くした新成人たちは真剣な表情で耳を傾けていました。また、新成人代表の我謝志帆さん、仲本祥子さん、金城まいさんが「これまで成長できたことに感謝し、浦添市民の一員として誇りを持って社会に貢献できるように努力してまいります」と決意の言葉を力強く述べました。

成人式を終えて

成人式本番までに、裏方として実行委員会の皆さんには様々な準備や苦労があったようです。

伊波信之祐さんの声(アルバム制作)
「思い出のアルバム」制作は苦勞しましたが、自分たちの手掛けた作品を見て、多くの友人に感謝されました。参加してよかったと思います。

新垣あいさんの声(司会進行)
仕事をしながらの参加で、思うように作業が進まず、辛いこともありましたが、よい経験になりました。この経験を今後の仕事にいかしていきたいです。



問い合わせ こども青少年課 ☎ 876-1234 (内線6615)



▲島井選手、市長とがっちり握手を交わす
市長表敬では、プロ野球において今後の目標や幼少時代の様子を語りました。また、市長も野球経験があり共通する話題が多くおおいに盛り上がりをみせていました。



東北楽天ゴールデンイーグルス プロ野球ドラフト5位指名 島井 寛仁 選手インタビュー

いつから野球を始めましたか
小さい頃からずっと野球が好きで、小学二年生のときに始めました。

目標とする選手は

元阪神の赤星選手と楽天の松井選手です。赤星選手は相手に警戒されながらも盗塁を決める技術がとても凄く見習いたいと思っています。松井選手は、幼い頃から好きでした。体はあまり大きくありませんが、メジャーリーグで活躍できることはとても凄いとだと思います。

熊本ゴールデンラックスに所属した際、文化など沖縄との違いはありましたか
沖縄との違いは気候でした。熊本は雪も降りますし寒かったです。しかしそれ以外では結構沖縄と似ているところが多く、食べ物もおいしかったです。とても住みやすい場所でした。そのため野球にも打ち込めた気がします。

仙台で楽しみにしている事は

まずは、名物の牛タンを食べたいです。
そして、徐々に仙台の気候や文化に馴染んでいきたいと思っています。

プロ野球での目標は

今年は一年目のシーズンなので、がむしゃらに一軍定着を目指したいです。そして僕の持ち味でもある俊足をいかしバッティングでも活躍して新人王を狙いたいと思っています。

今後は、やるからには一流を目指して頑張りたいです。また子ども達の憧れの選手になれるよう日々精進していきたいと思います。

夢を実現させるために必要なことは

一番は諦めずに何事にも打ち込むことです。僕は高校二年生の始め、興南高校から西原高校へ編入し野球部に所属しましたが、人間関係がうまくいかず、一時は野球と距離を置いていました。しかし、高校生活が充実せずもう一度野球をしたいという気持ちが強くなり、それからは野球一筋でいこうと思えました。

浦添の子どもたちへのメッセージ

夢は諦めなければ叶うと信じています。
これからたくさんの壁にぶちあたる事があると思いますが、その壁を乗り越えれば幸せが待っています。

プロフィール

島井 寛仁(22歳) 外野手 1990年6月19日生まれ、身長174cm、体重70kg、右投右打、浦添市西原出身で前田小学校→浦添中学校→興南高校→西原高校→ビッグ開発→熊本ゴールデンラックスを経てプロ入り。浦添中学校在学中は陸上競技でも活躍し、沖縄県大会の走り幅跳びで6m81cmを記録し優勝している。沖縄県大会で樹立した記録は未だ破られていない。50m5.6秒の俊足と遠投115mの強肩が持ち味。走攻守でチームを引っ張る存在として期待される。